

# 赤レンガ東京駅舎復元計画 (東京)



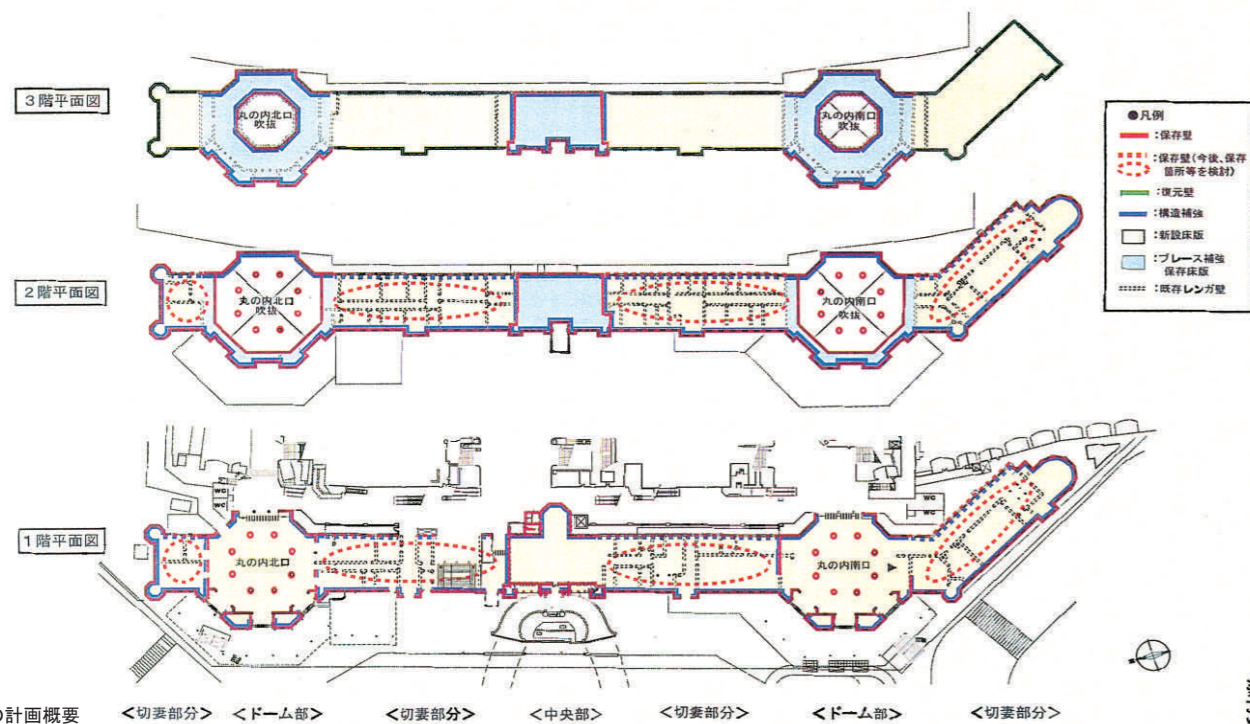
(大正3年) しゅん功当時の正面

大正3年 竣工当時の駅舎正面



現在の駅舎

現在の駅舎



添付資料4

## 丸の内・八重洲 駅前街区再開発

—— 動き出す空前絶後のプロジェクト

平成14年(2002)2月、JR東日本は「東京駅及び周辺の整備計画について」と題するプレス・リリースを発表した。ここには「東京駅丸の内駅舎を創建当時の姿に復元」することが明記されている。駅舎の保全・復元計画についてはJRと東京都の間ですでに合意がなされ、8回にわたる「東京駅周辺の再生整備に関する研究委員会／丸の内駅舎保存・復元分科会」(座長／岡田恒男・芝浦工大教授)で方法が検討されてきたが、それが一応の結論を見たため、今後は具体的な現況調査・実施設計段階へと進むことになる。

現況と異なる「創建当時」の東京駅丸の内駅舎を記憶する人はすでに少数派だろう。関東大震災ではほとんど被害を受けなかった東京駅丸の内駅舎だが、戦禍を免れることはかなわず、昭和20年(1945)5月の東京大空襲で煉瓦の外壁などを残して焼失した。現在の駅舎は、さまざまな改変を施して昭和22年に応急的に修復したものだ。しかし、それでもなお、日本最大の赤煉瓦駅舎として毅然たる風格を備えて存在している。駅舎本来の堅牢さとともに、建築および修復にあたった旧国鉄スタッフの技術水準の高さには敬服するばかりである。

しかし、開業から数えて88年、戦後の修復から数えても55年という節目を迎え、駅舎の老朽化は避けられぬものとなった。今、東京駅は新たな歴史を刻むべく、3度目の着工を静かに待っている。

「創建当時に施工された松杭は、今日の基準に基づく3階部分の復元においては耐力不足となること、復元駅舎の利活用する上で、地下空間を必要とすることからアンダーピニング工法により新設の杭に受け替えかつ地下構造体の施工を行うこととなります。煉瓦の壁面など現存する部分は可能な限り「保

存”し、外観を復元して耐久性を高めるという作業自体は技術的に十分可能。ただ、現役の駅舎であるという特殊な条件のもと、安全・迅速に工事を進めることが大きな課題となります」

今回の“復元”工事も、JR東日本の技術スタッフが総力を結集して実施する。担当者によると、駅舎の保存・復元を含む丸の内・八重洲駅前整備工事の完了予定時期は2010年度末。しかし、一日の乗降客が丸の内側だけで36万7000人(全体では81万2000人)という東京駅を丸ごと変身させるという巨大プロジェクトだけに、工事計画は慎重の上にも慎重を期さなければならない。プロジェクトの全貌は、丸の内駅舎復元のみならず、八重洲側への30階規模ツインタワー建設(共同事業)、丸の内・八重洲両駅前広場の総合的な再整備にまで及ぶ。言い換えれば、丸の内駅舎敷地の余剰容積を八重洲側へ移転するという手法によって、3階建駅舎の復元も初めて可能になったといえる。約500億円といわれる費用を一私企業が負担して復元するのは不可能だ。共同事業による八重洲再開発という両輪がそろわなければ、現状の赤煉瓦駅舎保存さえも危ぶまれるところだった。

八重洲側では現在の鉄道会館ビルを撤去する代わりに、南北に超高層ビルを建設してオフィス・商業施設を誘致する。両駅前には交通・景観に配慮して開放感のある広場へ。そして、復元丸の内駅舎が変貌した街区の新たなシンボルとして画竜点睛を添える。

大正3年の開業時、時の総理大臣・大隈重信は「東京駅はあたかも光線を発する太陽」であると演説したという。明治日本の掉尾を飾る一大国家プロジェクトだった“中央停車場”の建設——そして今、あらゆる意味で画期的な多数の試みとともに新世紀のプロジェクトが実行に移されようとしている。そこに現出するかつてない都市空間を目の当たりにする喜びは、独り百歳を超えんとする駅舎のみの感慨ではないだろう。



東京駅を中心とした八重洲の開発計画案



行幸通りより見た丸の内広場整備イメージ

着工前後から竣工まで —— 歴史と世相	
明治36年 (1903)	・12月 ライト兄弟が複葉機による初飛行に成功する。 ・この年、ドイツ人建築家バルツァーが「中央停車場」設計案を提出する。
明治38年 (1905)	・9月 ポーツマス条約が調印され、日露戦争が終結する。 ・この頃、工学博士・辰野金吾が「中央停車場」の設計を引き継ぐ。
明治41年 (1908)	・12月 鉄道院官制が公布され後藤新平が総裁に就任する。 ・この年「東京中央停車場」の建設工事が始まる。
大正3年 (1914)	・3月 「東京中央停車場」が完成する。 ・7月 第一次世界大戦勃発(8月、日本参戦)。 ・8月 パナマ運河が開通する。 ・12月 「東京中央停車場」を「東京駅」と改称して開業する。

